

美しい言葉にはうつくしい言葉が、

やさしい言葉にはやさしい言葉が宿ります。

日本語には、

日本の風景と、日本人のところが宿っています。

紙に書かれたことばにも

活字になった言葉にも

書いたひとのこころと、風景にはぐくまれた言葉が宿っています。

やさしい活字は、きつと、

ひとに安らぎを与えてくれるでしょう。

ひとしきりの冷たい雨が上がった。低く灰色の雲が東へ流れて去って行く空を、アイシャはぼんやりと眺めていた。カフェの支配人は今日も珈琲の金を受け取らなかった。にぎやかな広場に面したこのカフェの端のほうの席が彼女は好きだった。彼女のほかに女の客はめつたに来ることはない。いつも男どもでいっぱいである。中には嫌な目つきでじろじろ見る奴もいるのだが、彼女はもうなんとも思わなかった。というよりも彼女の気持ちは遠い国のことでいっぱいになっているのだ。聞いたことはあるが本当のことはなにも知らない国のこと。

母がなくなってもう二カ月が過ぎた。この町にやって来て10日になる。母から聞いていたアリおじさんには会えなかった。アイシャがまだ五つになったばかりの頃、アリおじさんはティフェニールの村を出て行った。そしてこのマラケシュの町で小さな仕立て屋をやっているはずだった。母がいなくなってしまった後の彼女には、村に身寄りも誰もいなかった。母が残していった沢山の金や銀の装飾品を売って彼女はいくばくかの金を作った。そして、ひとりでよく行ったマルシェの前から、初めての長距離バスに乗ったのだ。アイシャにとって、ひとりでこんな遠くまでやって来るのは大変なことだった。

窓が少し壊れていて、絶え間なく吹き込む冷たい風に震えながら、アイシャはマラケシュの街へやってきた。アリおじさんに会えたらもしかすると彼女にも少しはできるミシンで、何か仕事をもらえるかもしれないと思っていたのに、そんな望みは消えかかっていた。そんなとき、宿の近くで毎朝パンを焼いている、どこか母親に似ている女が教えてくれた国、エスパーニヤのことが、アイシャを虜にしまったのだ。タリファへ行けば、モロッコ絨毯のお店で仕事をもらえるかもしれないという。

ひとしきりの冷たい雨が上がった。低く灰色の雲が東へ流れて去って行く空を、

アイシャはぼんやりと眺めていた。カフェの支配人は今日も珈琲の金を受け取らなかった。にぎやかな広場に面したこのカフェの端のほうの席が彼女は好きだった。彼女のほかに女の客はめつたに来ることはない。いつも男どもで

いっぱいである。中には嫌な目つきでじろじろ見る奴もいるのだが、彼女はもうなんとも思わなかった。というよりも彼女の気持ちは遠い国のことでいっ

ぱいになっているのだ。聞いたことはあるが本当のことはなにも知らない国のこと。

母がなくなってもう二カ月が過ぎた。この町にやって来て10日になる。

母から聞いていたアリおじさんには会えなかった。アイシャがまだ五つになったばかりの頃、アリおじさんはティフェニールの村を出て行った。そしてこのマラケシュの町で小さな仕立て屋をやっているはずだった。母がいなくなってしまった後の彼女には、村に身寄りも誰もいなかった。母が残していった沢山の金や銀の装飾品を売って彼女はいくばくかの金を作った。そして、ひとりでよく行ったマルシェの前から、初めての長距離バスに乗ったのだ。アイシャにとって、ひとりでこんな遠くまでやって来るのは大変なことだった。

窓が少し壊れていて、絶え間なく吹き込む冷たい風に震えながら、アイシャはマラケシュの街へやってきた。アリおじさんに会えたらもしかすると彼女にも少しはできるミシンで、何か仕事をもらえるかもしれないと思っていたのに、そんな望みは消えかかっていた。そんなとき、宿の近くで毎朝パンを焼いている、どこか母親に似ている女が教えてくれた国、エスパーニヤのことが、アイシャを虜にしまったのだ。タリファへ行けば、モロッコ絨毯のお店で仕事をもらえるかもしれないという。